

令和4年度 7月号

めいか

令和4年6月30日
文京区立明化幼稚園

生き物との関わりを通して

園長 野田久美子

「しろくん かわいいね」「しろくん また明日」モルモットのしろくんは皆の人気者、子どもたちが遊びに来たり声を掛けたりしています。しろくんの世話は、年長児が行っています。「しろくん たくさんご飯食べてる」「お腹空いてたのかな」「おうちがきれいになってうれしいのかも」と、しろくんの気持ちを察しながら世話をしています。玄関には金魚がいます。水の中をゆらゆらと泳ぎ、口をパクパクさせている様子をじっと見ている子どもの姿が見られます。

先日、幼虫から育てていた年長組のキアゲハと年中組のモンシロチョウが羽化しました。登園時にチョウになっていることに気付いた幼児は大喜び、皆で外に放ちました。「バイバイ」「元気でね」チョウはその声に応えるかのように元気に飛んでいきました。年長組が育てていたキアゲハの幼虫は全部で3匹、金曜日に1匹羽化しましたが、残る2匹はさなぎのままです。「お休みの日にチョウになっちゃうかも」「食べるものがないと死んじゃうよ」どうすればいいかを図鑑で調べ、綿にしみ込ませた砂糖水と花を入れておくことにしました。月曜日、元気に羽化したチョウを見付け、「チョウになったよ」「よかったね」と、無事だったことを喜んでいました。

セキセイインコのメロンちゃんは5月から体調を崩し、職員室で過ごしています。病院に連れて行き、休日に教員が交替で投薬や世話をしに来たり、自宅に連れて帰ったりしています。調べてみると10歳を超えた老鳥であることが分かりました。メロンちゃんの状態を子どもたちに伝え、会いたい子が来られるようにしました。「メロンちゃんのお見舞いに来ました」「元気になってね」と様子を見守り、声を掛けています。

このような生き物との関わりを通して、子どもたちは、生き物への温かな感情、不思議さなど、様々なことを学んでいます。幼児期にこのような生命の営みや不思議さを体験することは大きな意味があります。生き物と関わる体験を繰り返す中で、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする気持ちを育てていきたいと考えています。



しろくん当番「きれいになってきたね」